



2004年7月28日 「第22回なにわの日」、総会会場にて(写真提供:中井さん)



「なにわことばのつどい」代表世話人  
**中井正明**さん

## プロフィール

1933年、大阪市生まれ。52年、大阪府立北野高等学校卒業。53年、薬品製造会社に入社し、93年、同社大阪支店を定年退職した。この間、83年には、なにわことばの良さを見直し、それを守り伝えていこうという人たちのグループ「なにわことばのつどい」の結成に参加。88年から代表世話人。大阪弁をしゃべり、解説できる土地の者(もん)としてテレビ、ラジオや新聞、雑誌への登場のほか、各種講演会、研修会などで「大阪弁」の普及・広報に活躍中。

# 方言、なまりが土地の標準語。 大事にしなはれや

唐突ですが、関西弁と大阪弁のエリアの違いを、ご存知ですか?「関西弁は、京阪神、和歌山あたりまで。大阪弁は大阪一円」という答えでしょうか…。

ここで、大阪弁に詳しい中井正明さん(「なにわことばのつどい」代表世話人)に登場していただく。「最近のマスメディアは、近畿、中国、四国に三重、福井に加え、鳥取弁、岡山弁も関西弁でくっついています。一方の大阪弁は船場・島之内の難波(なにわ)ことばと、和泉(いずみ)摂津(せつ)河内(かわち)の4つのことばがあり、いずれも大阪弁といえます」。

こう解説する中井さんは、関西弁の中でも特に船場・島之内界隈に伝わってきた大阪弁「なにわことば」を、いとおしみ、語り続けている「なにわ人」のひとりである。

「なにわことばのつどい」がスタートしたのは、1983年。当時勤めていた会社近くの喫茶店で、六代目松鶴のお弟子さんを中心とした上方落語の勉強会が行われており、中井さんも参加していた。「若手落語家が一席やって、

大阪弁と違う言葉があったら、それ、大阪弁ちゃうで」と我々が修正したり…」。桂小春団治が小春の名で、修行時代の笑福亭小つるや学光の顔もあった。そんな中、店のオーナーの発案で、大阪弁を聞き取って挿絵入りの巻物をつくることになり、この巻物づくりを通じて、大阪弁の収集作業が続くことになる。

## 大阪弁を聞いて育つ

中井さんは、北区中津の生まれで、大阪育ち。「船場に奉公していた母親の大阪弁でおおきなりましたもんで」。就職した会社でも、各地から集まってくる共通語に負ける?ことなく大阪弁で通し、取引先でも有名になるほど。加えて「特に寝食を忘れて…の勉強はしてません(笑)」と多くを語らないが、大阪弁や関西弁に関する書物、辞書で独学し、大阪弁に磨きかけたのである。

83年、大阪弁の収集作業を手伝うメンバーから、組織化の話が盛り上がり、まじまじよ大阪弁!をキャッチフレーズ

に「なにわことばのつどい」がスタートした。語呂の良い7月28日(728=なにわ)の設立記念日は、現在年1回行われている総会の日である。

「なにわことばのつどい」の知名度が上がるに付け、会員や中井さんにマスコミからの出演依頼が後を絶たず、各地のカルチャーセンターや大阪の老人大学での講師、他府県からやってくる修学旅行生に対する大阪弁講座などひっぱりだこだ。

講話の中身は、主に大阪弁の歴史や、「温もりのある」「ざっくばらんで」「ファジーな」大阪弁の特徴などが、中井さんが必ず付け加えるのが「方言、訛(なまり)が、その土地の標準語。大事にしなはれや」ということばだ。

とはいえ、「正しい大阪弁を守ろう」とか「広めよう」など、大上段に構えることはない。「ことばは、自然淘汰されるもの。そやから、若い人の言葉にも、心配してません。あんまり深く追求したら、しんどいでっさかいね(笑)」と、返ってくる答えも大阪弁らしくファジーなのである。

(文・脇本勤 / 表紙写真・高島悠介)